

2023年度（第86期）中間決算概要 及び 当期業績見通し

(株)竹中工務店

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことなどにより、社会経済活動の正常化が進み、企業収益及び個人消費は緩やかな回復基調を維持しましたが、物価上昇の影響による消費の下振れ懸念、ウクライナ情勢の長期化や世界的な金融引締め等による海外経済の減速により、依然として不透明な状況にありました。

建設業界においては、公共投資は堅調に推移し、民間投資も堅調な企業収益等を背景に持ち直しているものの、資材価格の高止まりと労務費上昇等の影響を受け、経営環境は厳しい状況が続きました。

このような状況下において、当社グループは経営理念である「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を基軸とした品質経営と企業体質の強化を第一義とし、建設事業の高度化と開発事業の収益基盤拡大等の活動に取り組んで参りましたが、前中間連結会計期間に比して、受注高、売上高は増加したものの、各利益項目は減少しました。

当中間連結会計期間における当社グループの連結業績は、売上高が前中間連結会計期間比16.5%増の7,414億円余、損益面では、建設事業において資材価格の高止まりと労務費の上昇等が工事利益を下げる大きな要因となり、営業損失が13億円余（前中間連結会計期間は160億円余の営業利益）となりました。経常利益は前中間連結会計期間比67.6%減の73億円余、親会社株主に帰属する中間純利益は前中間連結会計期間比24.2%減の132億円余となりました。

当社においては、売上高が前中間会計期間比19.1%増の5,678億円余、営業損失が112億円余（前中間会計期間は63億円余の営業利益）、経常損失が13億円余（前中間会計期間は179億円余の経常利益）、中間純利益は前中間会計期間比48.7%減の84億円余となりました。

当中間連結会計期間における当社グループの連結業績（連結法50社+持分法13社=計63社）及び当社単体の業績は以下のとおりです。

1. 中間決算概要

連結、単体ともに増収・減益

主たる項目の実績額と前中間期増減率の状況は下表のとおり。

	連 結		単 体(個別)	
	実績額 (億円)	前中間期 増減率(%)	実績額 (億円)	前中間期 増減率(%)
受注高	8,732	34.3	6,981	42.4
うち 建設	8,045	38.0	6,834	44.5
売上高	7,414	16.5	5,678	19.1
うち 建設	6,717	17.1	5,521	19.4
売上総利益	400	△29.6	186	△49.3
うち 建設 ※1	274 (4.1%)	△37.5 (△3.6ポイント)	138 (2.5%)	△55.5 (△4.3ポイント)
営業利益	△13	—	△112	—
経常利益	73	△67.6	△13	—
親会社株主に帰属する 中間純利益 (単体では中間純利益)	132	△24.2	84	△48.7
次期繰越工事高	17,837	※2 8.0	14,896	※2 9.7

※1 実績額欄は完工利益率を記載している。

※2 次期繰越工事高については、前期末増減率を記載している。

2. 当期業績見通し

当期（2023年12月期）の業績見通しは以下のとおりです。

社会経済活動の正常化が進み、国内景気は回復基調を維持しているものの、世界的な物価高や金融引き締め、ウクライナ情勢の長期化など、経済・社会情勢を引き続き注視する必要があります。国内建設市場は、公共工事、民間工事とも堅調に推移しているものの、資材価格の高止まりや労務費上昇等により、厳しい経営環境が続いており、早期かつ適切な対策が必要な状況にあります。国内開発事業においては、ホテル事業では宿泊需要の回復が見られる一方、オフィス空室率上昇及び賃料下落の継続や、光熱費の上昇など、今後も長期的に影響を受ける可能性があります。

このような状況下において、当社はグループ全体で多岐にわたる専門性と技術力、マネジメント力を発揮できるよう、人材・技術・デジタル化推進・脱炭素社会実現に向けた取り組みなどへの必要な投資を進めることで経営資源を強化・拡充し、社会とお客様にとって最良のパートナーを目指します。激しい環境変化に対して柔軟に対応しながら、揺るぎない経営理念のもとにサステナブル社会の実現に向けて今後も事業の推進に取り組んでまいります。

(1) 連結業績

(単位：億円)

	①前期実績 〔自 2022年 1月 1日 至 2022年12月31日〕	②当期見通し 〔自 2023年 1月 1日 至 2023年12月31日〕	増減額 (②-①)	前期 増減率 (%)
受 注 高	14,457	15,800	1,343	9.3
建設事業	13,112	14,400	1,288	9.8
売 上 高	13,754	15,500	1,746	12.7
建設事業(完工高)	12,462	14,100	1,638	13.1
開発事業等	1,291	1,400	109	8.4
売上総利益	1,100 (8.0%)	1,040 (6.7%)	△ 60 (△1.3ポイント)	△ 5.5
建設事業(完工利益)	853 (6.8%)	830 (5.9%)	△ 23 (△0.9ポイント)	△ 2.7
開発事業等	247	210	△ 37	△ 15.1
一般管理費	817	850	33	4.0
営業利益	283	190	△ 93	△ 32.9
経常利益	393	300	△ 93	△ 23.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	302	290	△ 12	△ 4.2

(2) 単体(個別)業績

(単位：億円)

	①前期実績 〔自 2022年 1月 1日 至 2022年12月31日〕	②当期見通し 〔自 2023年 1月 1日 至 2023年12月31日〕	増減額 (②-①)	前期 増減率 (%)
受 注 高	10,917	11,870	953	8.7
建設事業	10,599	11,600	1,001	9.4
売 上 高	10,428	11,780	1,352	13.0
建設事業(完工高)	10,151	11,500	1,349	13.3
開発事業等	277	280	3	1.0
売上総利益	728 (7.0%)	675 (5.7%)	△ 53 (△1.3ポイント)	△ 7.4
建設事業(完工利益)	640 (6.3%)	600 (5.2%)	△ 40 (△1.1ポイント)	△ 6.3
開発事業等	88	75	△ 13	△ 15.2
一般管理費	606	615	9	1.4
営業利益	121	60	△ 61	△ 50.8
経常利益	273	180	△ 93	△ 34.3
当期純利益	248	220	△ 28	△ 11.4